

主日礼拝 2021年1月17日(日)

題 『洗礼者ヨハネの叫び』

テキスト：マルコによる福音書1章：1～8節

コロナ禍で気持ちは重くなりますが、コロナ禍のステイホームはキリスト者にとって聖書を読む良い機会になるのかもしれませんが。どん底に落ちて、這い上がり、今活躍している相撲の力士がTVで、「稽古も続けていれば癖になり、癖になれば楽しくなる。」と言っておられました。聖書を読むことにもあてはまるように思います。旧約聖書の創世記から新約聖書の黙示録まで輪読されることをお勧めいたします。正直、集中できない時もありますが、言葉との出会いは楽しいもので信仰の力、生きる力になります。

さて、今後しばらくマルコによる福音書を共に学びたいと考えています。マルコによる福音書は、イエスさまの生涯を伝えている4つの福音書マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの中で一番短く、一番古い時代にまとめられた福音書とされています。

ちなみに今日はあの阪神淡路大震災から26年目です。皆さまの中にも、怖い、辛い体験をされた方々はおられ、思い出されることもあると思います。苦しみを経験された方々の上に、慰めをお祈りいたします。体験を忘れることなく、辛い傷ついた記憶が癒されますようにと願うのです。

今年はコロナの影響で大きな集まりは難しい状況ですが、それぞれの場で祈りを合わせたいと願います。多くの方が記憶し、記録が残されています。またその記憶や記録が若い人たちに受け継がれて行くことが大切だと思います。このコロナのことも後世に伝えられて行くことと思います。

起こった事が正しく記録に残され、伝えられることがそれ以後生きる人たちにとって役に立つ大切なことなのです。それゆえ歴史を正しく記録し残すということは、難しいことですが天と地を創られた神さまと人間に対する責任だと思います。

さてこのマルコに福音書は、素朴な形でイエスさまのことを生き生きと伝えてくれています。

今日の個所は「洗礼者ヨハネ、教えを宣べる」との見出しがつけられています。

1:神の子イエス・キリストの福音の初め。とあります。

ここから学べることは、神の子イエス・キリスト。イエスは神の子であるという告白です。イエスは神の子であり、キリスト、すなわち「油注がれた者、救い主」であるということです。人はイエスを神の子キリストと、心から信じ

れば自分の罪の赦しを与えられ、死の恐怖からも救われるのです。それが福音「良き知らせ、良き便り」です。英語では GoodNews です。「福音の初め」初めとは、「源」でもあるのです。

マルコ福音書は、今から人類の救いに関するすばらしい出来事、物語が始まるのだと伝えてくれているのです。聖書を学ぶということは、命のことばとのワクワクする出会いであります。人は生きた言葉との出会いで確かに生きることができるのです。

このヨハネは洗礼者ヨハネ、バプテスマのヨハネと言われ、イエスさまより先に来る神さまからの使者として旧約聖書で預言されていたことが語られています。ちなみにヨハネの名前には「神は恵み深い」という意味があります。

預言は2節から4節にある預言者イザヤの言葉です。

2:預言者イザヤの書にこう書いてある。「見よ、わたしはあなたより

先に使者を遣わし、／あなたの道を準備させよう。

「見よ」とは、聖書に良く出てくることばです。聞く人の心を注意して語る事に向けさせるのです。

ヨハネは救い主であるイエスさまを伝える、叫ぶ声なのです。

3:荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、／その道筋をまっすぐにせよ。』

道を整え、道筋をまっすぐにする働き人です。荒れ野に、後から来る救い主イエスが通る小さな小径を切り拓き、開拓したのが洗礼者ヨハネの働きでした。

道をつけることは大変な労力が入り苦勞します。でも喜びも大きいものです。洗礼者ヨハネからイエスさまの事を見る時、救いの歴史はつながっているのだな～と思わされます。

教会の働きを見ても、神さまの大きな御手の中、愛の中で、人間の思いを超えて、牧師・信徒関わらず様々な人たちが、選ばれ招かれ生かされ用いられて行くのだと思わされます。

さて、ヨハネは一体何を伝えたのでしょうか？

4:洗礼者ヨハネが荒れ野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。

洗礼者ヨハネは町を離れ、荒れ野に住んでいました。時のエルサレムを中心とするユダヤ教の中心にいるグループからは距離をとっていたようです。

彼の身なりは、当時の羊を飼って移動して生きていた遊牧民のような姿、6節にあるように6:ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。と記されています。

ところで、1947年にイスラエルの死海のほとりにある洞窟から死海写本

と呼ばれる古文書(こもんじょ)が発見されました。クムラン文書とも言われ、昔このあたりにクムラン教団と呼ばれる人たちが生活したと言われます。洗礼者ヨハネもその影響を受けていたのではないか、イエスさまも一時期、このヨハネの影響を受けたとも言われています。このクムランの洞窟から戦後、1947年ごろ壺に入ったイザヤ書の巻物が発見され世界的なニュースになりました。ほぼ現在のイザヤ書の文章のままだったのです。考古学的にも驚くべきことでした。

洗礼者ヨハネは神の使者として地域の人々に悔い改めを宣べ伝えました。

そして悔い改めの洗礼を授けていたのです。これは当時の神さまの律法特に十の戒めである十戒に対する、違反に対する悔い改めであったと思われます。

天と地の創り主である神以外のものを神とする偶像礼拝や悪から離れるようにとの強い勧めです。

このヨハネの悔い改めの洗礼が、後にイエスさまの全き罪の赦しの洗礼へとつながったのです。ヨハネの洗礼にはヨルダン川の水が用いられましたが、

主イエスの罪の赦しの洗礼は、イエスさまの十字架の愛と復活の命、つまり主イエスの身体と血潮での贖い、神の霊によってもたらされたのです。イエスの苦難と十字架、復活なしに罪の赦しの洗礼はなかったのです。救いとは、魂の自由と解放のことです。救いとは永遠のいのちそのものです。

主イエスが与えてくださる救いとは、自分の心を縛り付けるこの世の諸々の鎖からの完全な自由と解放なのです。そして神さまに与えられた人生を地道に生きて行けるのです。

洗礼者ヨハネは、神に与えられた働きを毅然として果たした人です。

荒れ野に叫ぶ声として、イエス・キリストを指し示す一本の指としてです。

ヨハネは叫びます。

8:わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」

イエスさまは神の力である、神さまそのものである聖霊で、清き霊で洗礼を授けられるというのです。それゆえ、イエスの名によって洗礼を授けられた者たちには聖霊が授けられているのです。たとえ今は分からなくても、キリスト者は生涯をかけて洗礼を受けた意味を思い返し、神さまの恵み深さを学び、味わって行くのです。

ここに集ったわたしたち洗礼者ヨハネの働きを思い、わたしたちもすでに神さまの救いの時に入れられていることを感謝して、これからの人生の日々を歩みたいと願います。

◆洗礼者ヨハネ、教えを宣べる

- 1:神の子イエス・キリストの福音の初め。
- 2:預言者イザヤの書にこう書いてある。「見よ、わたしはあなたより先に使者を遣わし、／あなたの道を準備させよう。
- 3:荒野で叫ぶ者の声がある。『主の道を整え、／その道筋をまっすぐにせよ。』」 そのとおり、
- 4:洗礼者ヨハネが荒野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。
- 5:ユダヤの全地方とエルサレムの住民は皆、ヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。
- 6:ヨハネはらくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。
- 7:彼はこう宣べ伝えた。「わたしよりも優れた方が、後から来られる。わたしは、かがんでその方の履物のひもを解く値打ちもない。
- 8:わたしは水であなたたちに洗礼を授けたが、その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」